

『通信』 II 第四号

目次

ごあいさつ	1
2016年春季大会	1-2
2016年秋季大会	2-6
2017年春季大会	6-11
問い合わせ先・連絡事項	11

ごあいさつ

『通信』II、第四号をお届けします。今回は、2016年春季大会および秋季大会、2017年春季大会の様をお伝えします。2016年春季大会に関しましては、諸事情のため簡潔なご報告になっておりますこと、お詫びいたします。

なお、本誌に掲載しております報告者の所属は報告時のものです。

2016年春季大会報告

2016年6月19日(日)に愛知大学名古屋キャンパス(講義棟6階 L601教室)にて、2016年春季大会が開催されました。

午前の部は、北村陽子氏(愛知工業大学)が司会を務められ、アメリカ女性史研究を牽引していらっしゃる西崎緑先生のご講演「Lifting As We Climb: Education and Activism of the African American Women in the early twentieth century」が行われました。ご講演のコメンテータとして倉石一郎氏(京都大学)が登壇されました。

午後の部では、「教員養成史の再検討」ということで岩下誠氏(青山学院大学)の司会のもと、加島大輔氏(愛知大学)が「明治期教員養成史の再検討-教師の職業的自覚・教員養成の



「公」性「私」性の問題から—」を、前田更子氏（明治大学）が「世紀転換期フランスにおけるカトリック教育の再編と教員養成」というタイトルで報告されました。山田浩之氏（広島大学）にお二人に対するコメントをしていただきました。

最後に、本研究会の世話人の一人である岩下誠氏の開催報告メールに記載されていた文章は、本大会で得たこれから我々が共有すべき課題が記されておりますので、ここに転記させていただきます。

「一方で、制度史や就学実態のようなオーソドックスな教育史的テーマに関してまだまだ知られていない、共有すべき事実が沢山あるのだと改めて認識すると同時に、他方で「転回」後の歴史学の理論や方法論のような最先端の部分を、単に（舶来の？）知識ということではなく、自分たちの研究を見直す / 他者の研究を深く理解する、という実践レベルを念頭において勉強し、議論を共有しなければならないのではないかと自省しました。」

2016年秋季大会報告

2016年11月26日（土）に青山学院大学（青山キャンパス 二号館 220 教室）にて、2016年春季大会が開催されました。

第一部は、新しい部会である「ナショナリズムと教育」部会立ち上げの会が岩下誠氏（青山学院大学）の司会のもと開催されました。報告者は座長である姉川雄大氏（千葉大学）と倉石一郎氏（京都大学）、三時真貴子氏（広島大学）でした。

第二部は本研究会の若手部会の共同研究の成果である『教育支援と排除の比較社会史—「生存」をめぐる家族・労働・福祉』の合評会が行われました。司会は編者の一人である三時真貴子氏（広島大学）が務めました。コメントに橋本伸也氏（関西学院大学）と大門正克氏（横浜国立大学）をお迎えするという大変贅沢な会となりました。タイトなスケジュールでコメントをお願いしたにもかかわらず、お二人の先生からは非常に丁寧かつ示唆に富んだコメントをいただきました。ここで改めてお礼を申し上げます。

詳細は以下の報告の通りです。ご参照ください。